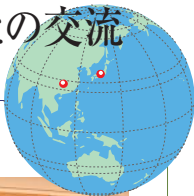


古代における中国との交流

—滋賀県と湖南省—

総括学芸員 (考古学)

用田政晴



東近江市長勝寺町・神郷町の田んぼの中に、「亀塚」と地元では呼ぶ「古墳」が残されています。全長 38 m を計るいわゆる前方後墳ですが、横から見ると前方部が亀の首、後方が胴のように見えるのでそう呼ばれています。



▲「亀塚」

3 世紀初め、邪馬台国のころの墓と思われる亀塚は、数年前に発掘調査され、木槨という木の部屋の中に木棺を納めた構造であることがわかりました。これは当時の日本列島では珍しい構造で、後の多くの古墳では、木槨が石の部屋に置きかわって堅穴式石室と呼ばれています。

この木槨は、古代中国にその源流があり、最も有名なものは滋賀県と友好関係にある湖南省長沙市の郊外にあります。馬王堆漢墓と呼ばれる前漢の長沙国宰相婦人の墓は、亀塚よりも



▲馬王堆漢墓の木槨

400 年近く古く、紀元前 2 世紀中ごろのもので、二重の槨に四重の棺を納めたもので、木槨板の厚みは 30cm 近くあり、湖南省博物館でこれを見た時はその大きさに驚きました。

最近、中国大陸や朝鮮半島から日本海を通じて、若狭湾・琵琶湖を経由しながら大和王権の中枢に入る、弥生時代から古墳時代にかけての外交ルートが再認識されてきています (植田文雄『「前方後方墳」出現社会の研究』学生社 2007 年、用田政晴『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群』サンライズ出版 2007 年)。亀塚に葬られたのは、古代の琵琶湖交通を担った人物で、相当に略式化されながらも古代中国の影響を受けた方法で葬られたことが、琵琶湖に近い川のほとりの水田中に残る小さな塚からわかってきたのです。

一般的に日本では、釣った魚を記念として残す場合、剥製や魚拓がありませんが、フライフィッシング

うちに、毛鉤に飛び出すイワナやアマゴの美しさに魅了され、この釣りが大好きになりました。一般的に日本では、釣った魚を記念として残す場合、剥製や魚拓がありませんが、フライフィッシング



昨年には、琵琶湖博物館 1 階の「集う、使う、創る新空間」を会場に、「木から生まれた渓魚たち」と題したクラフト展を 1 ケ月間開催。期間中、天然の渓魚の美しさに目を輝かせる子供たちや、「昔は

れたらと思うようにになりました。今、全国の渓流魚は年々減少の一途をたどっています。まずは来年、琵琶湖博物館での二回目のクラフト展を目標に、家族の目を気にしつつ(笑)、いそいそと釣り場に向かっていきます。

わたしも博物館人

一向に上達しないヘボフライフィッシャー
福永和明



5 年前、友人から溪流釣りに誘われた。フライフィッシングという西洋の毛鉤釣りで、にわか仕込みの私に釣れるわけもなく、あえなく撃沈！しかし、その後もこりずに続けるうちに、毛鉤に飛び出すイワナやアマゴの美しさに魅了され、この釣りが大好きになりました。

は釣った魚はリリースするのがルールですので、何とかその美しい姿を残せないかと思い、釣り上げた渓魚の写真を元に、原寸大の木彫のオブジェを作ることになりました。

足で踏んづけるほど魚がいたのにな」と嘆く地元の人々の話を幾度となく聞くにつれ、こんなクラフト展でも、見てくれた人が少しでも「渓魚をとり巻く環境」に目を向けてくれるらと思うようになりました。まずは来年、琵琶湖博物館での二回目のクラフト展を目標に、家族の目を気にしつつ(笑)、いそいそと釣り場に向かっていきます。

こんにちは！展示交流員です。



私たちは、琵琶湖博物館の案内だけでなく、展示を通してみなさんと交流し、みなさんに身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっています。どうぞお気軽にお声をかけてください。

今回は、B 展示室で行われた「交流員と話そう」からの取材です。琵琶湖へ入る水と出て行く水にスポットをあててみました。来館者の方とどんな交流があったのでしょうか。

「西野水道」(犬塚交流員)

▶このテーマを選んだ理由は？

▶湖北の高月町にある琵琶



湖へ放水する水路です。江戸時代に長年洪水に苦しんできた村人たちが水害の解消を願い費用を負担し、5 年の歳月をかけて完成した手掘りの排水トンネルなのです。琵琶湖の周辺では、以前にはこのような苦労の歴史があったということを知ってほしいと思いました。

▶来館者との交流は？

▶「今度行って見て



みよう」と関心をもっていただく方が多く、いろいろと調べた甲斐がありました。ごらんになっていない方には「近くへお寄りの際はぜひ見てください」と勧め

「疏水を歩こう」(井出交流員)

▶琵琶湖から出て行く水ですね。テーマを選んだ理由は？

▶私は京都生まれなのですが、身近に流れている「琵琶湖疏水」のことをあまりよく知らなかったのです。疏水に沿って歩いてみました、

◀B 展示室「治水・利水への取り組み」コーナー



思わぬ発見や感動がたくさんありました。

▶来館者の反応は？

▶「疏水のことは聞いたことはあるが、あまりよく知らない」といわれる方が案外多いです。興味を持っていただいて、「散歩してみようかな」といわれる方もおられました。疏水の話だけでなく、治水・利水のこともお話しています。琵琶湖の水がさまざまに利用されていることが知られてもらえればと思います。

交流ノート